

学生支援制度報告

The 8th International Symposium of Indonesian Wood Research Society に参加して

連合農学研究科 博士3年

相 蘇 春 菜

私は、10月21日にインドネシア共和国・アンボンで開催された、The 8th International Symposium of Indonesian Wood Research Society (IWoRS) に参加する機会に恵まれ、「Changes in anatomical and chemical characteristics by reaction wood formation in 28 tropical angiosperms naturally grown in Indonesia」のタイトルで口頭発表により研究成果を発表して参りました。私は、樹木の重力ストレスに対する応答様式について研究しており、日本だけでなく、インドネシアも研究活動の拠点としています。これまで国際会議での発表経験は何度かありましたが、今回の国際会議は、私が学生として参加する最後の機会でした。また、IWoRSは、私が修士課程1年次より毎年のように参加し、研究成果を発表してきた学会です。そのため、今回のIWoRSへの参加は、熱帯樹木に関する研究成果の集大成を発表するという点で、非常に思い入れのある学会となりました。IWoRSへの参加を重ねるごとに、多くの先生に声をかけて頂くようになり、参加当初の頃と比較すると、研究内容について、より深く英語で議論できるようになったと感じました。また、国内外を問わず、他大学の友

人も増え、互いの大学での生活や、実験の話をするに苦勞を感じなくなってきたことも、国際会議へ参加したことにより得られた成果の一つであると思います。

アンボンは、首都ジャカルタから北東へ約2300km離れたところに位置する、佐渡島と同程度の広さを持つ島です。島の周囲には美しいサンゴ礁が広がり、多くのダイバーが訪れる場所でもあります。発表終了後の懇親会の際、小高い山の上からアンボン市街の町並みと真っ青な海を見下ろしながら、参加者同士で記念撮影をすることができ、大変良い思い出となりました。

今後も研究活動や国際会議への参加を通じて、国際交流に積極的に参加していきたいと思います。今回、IWoRSへの参加を支援して下さいました、峰ヶ丘同窓会に、心より感謝申し上げます。



The 2nd Edition of the International Congress on Strigolactones に参加して

応用生命化学科 4年

依 田 彬 義

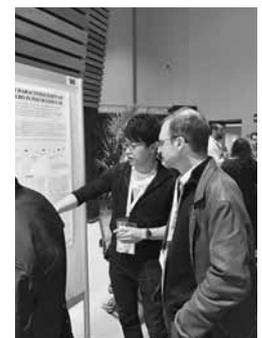
私は3月27-31日にイタリア・トリノで開催されたThe 2nd Edition of the International Congress on Strigolactones (ICS) で、「BIOCHEMICAL CHARACTERIZATION OF PsMAX1 AND PsLBO IN PISUM SATIVUM」のタイトルでポスター発表により研究成果を発表させていただきました。ストリゴラクトンは、植物自身の枝分かれ抑制作用や植物の養分吸収を助けるアーバスキュラー菌根菌との共生促進作用、宿主植物の栄養を奪う根寄生植物種子の発芽刺激作用を持つ植物ホルモンです。農業生産において重要な生理作用を持つストリゴラクトンの生合成経路を明らかにすることで、植物の形態制御や菌根菌との共生促進による生産性の向上、寄生植物の画期的な除去法などの開発が可能になることが期待されます。今回の発表ではストリゴラクトン生合成酵素であるMAX1及びLBOの多様性、保存性を調べることを目的とした、エンドウのMAX1及びLBOホモログの酵素機能の解析結果を発表してきました。

初めての国際学会への参加ということで英語が聞き取れないことが多々ありましたが、ポスター発表ということで

一人一人なんとかコミュニケーションをとることができたことが救いでした。ISCでは最先端のストリゴラクトン研究を学ぶことができましたが、研究における知識の面や英語でわからないことも多くあり自分の未熟さも感じ、今後更なる勉学と研究に励むことが必要だと感じました。

会場は世界遺産に登録されているサヴォイア王家の王宮群の一つである Cavallerizza Reale で行われました。トリノの街はアントネリアーナの塔やマダマ宮殿など威厳ある歴史的建造物が並んでおり、美しい景観を楽しむことができました。

最後になりましたが、貴重な経験をすることができた国際会議への参加にあたり、支援して頂きました峰ヶ丘同窓会の皆様に心より感謝申し上げます。



シカゴでの学会に参加して

農学研究科 生物生産科学専攻 動物生産学講座
 栄養制御学研究室 修士2年 成田 和

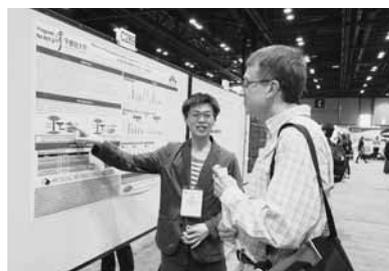
2017年4月21日から4月26日にかけてアメリカ合衆国のイリノイ州シカゴで開催された Experimental Biology 2017 という生理学や栄養学、スポーツ科学、形態学などライフサイエンスに関わる様々な分野の研究者が集まる学会に参加いたしました。私は、Effect of Shiikuwasha extract supplementation on muscle protein synthesis in the rat model of insulin resistance. (インスリン抵抗性モデルラットにおけるシークワサー抽出物投与の筋タンパク質合成への影響) という題目でポスター発表をさせていただきました。

シークワサーには血糖値低下作用、抗がん作用の他に筋萎縮を抑制する作用があることが明らかになっています。私は、特に筋萎縮を抑制する作用に注目し、シークワサーが筋肉のもととなるタンパク質の合成にどのように影響しているのかその作用機序を調べました。発表にはアメリカ人や台湾人、フランス人など世界各国の方々に興味を示してもらえました。英語での説明は難しく、思い通りに伝えることができない箇所がありましたが活発な議論を行うこ

とことができました。頂いた意見を今後の研究活かしていきたいと思えます。

シカゴはニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐアメリカ国内で第3位の都市です。古くから摩天楼の建設が活発であり、市内には今なお多くの歴史的建造物があり、新旧の摩天楼が混在している様子はとても感慨深いものでした。クラフトビールやシカゴピザといわれる4~5cmと厚めのピザなど現地のおいしい料理を食べることもできました。

最後になりましたが海外での研究発表という貴重な体験をする機会にご支援いただきました峰ヶ丘同窓会に感謝いたします。



平成29年度理事会報告

平成29年6月17日(土)13時30分より、宇都宮市のホテルマ イステイズにて平成29年度理事会が開催された。以下に項目別に議事内容を記載する。



会議風景

1. 開会

司会の小笠原勝常任理事より、構成員数72名のうち、出席37名、委任者18名、合計55名で、会議が成立していることが報告された。

2. 物故者への黙祷

理事会の開催に先立ち、物故者への黙祷を行った。

3. 同窓会長挨拶

日頃の円滑な会務運営に対する協力・支援に感謝を表明するとともに、昨年11月のホームカミングデーには100名近い参加があったことが報告された。また、4年に1回の会員名簿作成が本年12月中旬を目途に予定されているので引き続きの協力を依頼した。

4. 議長選出

慣例により、和賀井峰ヶ丘同窓会長が選出された。

5. 会務報告

杉田昭栄理事長より、支部総会合計11件、常任理事会12件、宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会やホームカミングデー実行委員会等6件、大学入学式等学内行事5件、同窓会報154号の発行、教員教育研究支援3件、学生支援18件があったことが報告された。質疑等は特になかった。

6. 平成28年度決算報告及び監査報告

石栗太常任理事より以下の報告があった。一般会計の歳入については、例年並みであり、基本財産特別会計からの繰り入れは行われなかった。歳出に関しては、90周年史の印刷・発行、校旗の額装などが報告された。続いて、田中